

「滋賀大学教育学部と附属学校園との共同研究について」

神部 純一

1. はじめに

滋賀大学教育学部には、「附属幼稚園」、「附属小学校」、「附属中学校」、「附属特別支援学校」の4校園があり、附属学校園が果たす任務を以下のように捉え、幼児・児童・生徒の教育と研究を重ねている。

その任務とは、第一に、命と人権を大切に作る豊かな心とたくましく生きぬく力、自己教育力を身に付けた幼児・児童・生徒の育成をめざすことである。第二に、本学の教育学部をはじめとする各学部、その他関係機関と連携し、幼児教育、初等教育、中等教育、特別支援教育についての新しい理論と実践に関する研究を先駆的に行い、県内の公立学校園に成果を還元し、全国の附属学校園等とも積極的な交流を進めることである。そして第三に、本学教育学部及び教職大学院と連携し、学部生や院生の実習指導にあたりるとともに、県内の教育委員会とも協力し、現職教員の研修受け入れを積極的に行うなど、次代の教育界を担う人材を育成することである。

これらのうち、以下では第二の任務に焦点をあて、本学の教育学部と附属学校園が取り組んでいる共同研究について述べる。

2. 教育学部と附属学校園との共同研究

本学には、大学教員の専門的な研究基盤と附属学校での実践的研究という実践的研究基盤があり、様々な形で共同研究が進められている。以下では、各学校園で取り組まれている研究の一部を紹介する。

【幼稚園】

附属幼稚園では、大学教員とともに、幼児教育を小学校教科の視点からみる「保育教諭のための運動遊び研修と教材開発」を実施している。また、大学教員の指導のもと、学生と園児が共同で京阪電車青春21文字展に向けたアート作品を制作する事業や、幼稚園のビオトープ横に水田を造成し稲の生育の様子を観察する等、学部との密な関わりの中で幼児教育が行われている。

【小学校】

○「敷き詰めパズルを用いたアンプラグド・プログラミング教材の開発」

2020年度に小学校プログラミング教育が必修化され、現在、全国で様々な実践が展開されている。その際、小学校でプログラミング教育を進める上で、コンピュータを用いないアンプラグドな学習には一定の存在意義が認められる。附属小学校では、大学教員と附属小学校教員の共同研究として、2021年度から算数科の学習内容にも対応付けられる敷き詰めパズルを用いたアンプラグド教材の開発を行っている。これまでに附属小学校第5学年と第4学年においてその教材を用いた授業実践が行われ、その研究の成果は、共同論文として発表されている。

【中学校】

○「一貫性を考慮した家庭科カリキュラムの創造」

現在、教育課題の一つとして義務教育における小中一貫教育の推進があげられている。

本研究では、家庭科教育を取り上げ、一貫性を考慮したカリキュラムについて構想している。まずは先行研究をもとに、地域や時代の背景、児童の実態に応じた5年間（小学校5年生から中学校3年生）における家庭科のカリキュラムを構想し、その後、小学校・中学校での具体的な授業構想へと研究を進めていくことで学習の充実をはかっている。大学の教員養成にも本研究で得た知見を活用し、初等と中等の教育法及び初等内容学の授業改善を図っている。

○「地域の公文書等を活かした社会的な課題を追究する中学校社会科の教材開発及び授業実践に関する研究」

これまで6年にわたり、法教育・司法学習を中心に主権者教育に関する実践的取り組みを継続的に行っている。具体的には、①裁判所の判決文を活用した教材開発とそれを活用した授業実践研究、②模擬裁判（刑事事件）に関する教材開発研究、③民事裁判（経済单元）における当事者の主張・立論に着目し

た授業実践研究、④公文書を活用した教材開発と授業実践等である。本年度はこれまで積み上げてきた実践と研究成果をもとに、多面的・多角的に社会的な課題の解決に取り組める教材作成を目指している。

【特別支援学校】

○「50 周年事業 過去から未来へ～現在（いま）を捉え直す校内研究～」

特別支援学校では、「校内研究」を大学教員の協力を得ながら実施している。本年度は「50 周年事業 過去から未来へ～現在（いま）を捉え直す校内研究～」を実施した。校内研究ではまず、研究を進めていくにあたり「特別支援教育の歴史」、「発達の視点をもつ」をテーマに大学教員による研修会を実施し、研究の方向性を教職員で共有した。その後、「特別支援教育や本校の歴史」、「学校教育目標等の変遷」、「学校行事等の変遷」等の分科会に分かれて、大学教員の指導・助言を得ながらグループ研究を実施した。また、大学との連携により、新たに2つの分科会を設け、市町の教職員を対象に「実践ワークショップ」を実施した。

3. おわりに

滋賀大学教育学部附属学校園は、教育学部との共同で多くの研究成果を上げている。今後も大学の附属という特徴をいかし、滋賀県だけでなく全国の学校教育の発展に寄与できる研究活動に継続して取り組んでいきたい。

（滋賀大学教育学部附属小学校校長）